

出来形管理基準及び規格値

単位mm

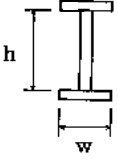
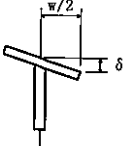
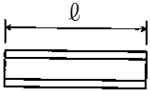
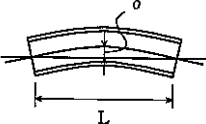
工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )
		上限	下限
プレキャスト カルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高 ▽	±30	
	※幅 w	-50	
	※高さ h	-30	
	延長 L	-200	

工 種	測定項目		規格値
検査路製作工	部材	部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$
鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 $w$ (m)	0 ~ +30
	仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設 計 値 ±4
		フィンガーの食違い $\delta_2$ (mm)	±2
落橋防止装置製作工	部材	部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$

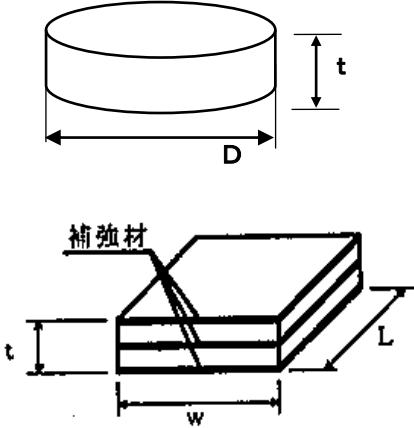
測定基準	測定箇所	摘 要
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打のある場合。		
1 施工箇所毎		

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。	<p>(実測値) <math>\delta_2</math> </p>	
図面の寸法表示箇所にて測定。		

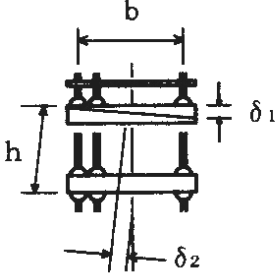
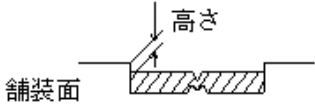
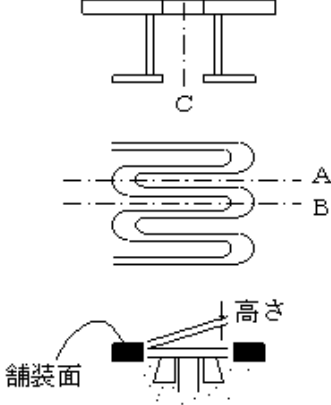
工 種	測定項目		規格値
鋼製排水管製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
プレーム用桁製作工	部 材	フランジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$
		フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$
	仮 組 立 時	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
		主げたのそり	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$
橋梁用防護柵製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型鋼げた</p>	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主げたについて10～12m間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

工 種	測定項目		規格値		
<p style="text-align: center;">鑄造品 (金属支承工)</p>	上・下部鋼構造物との 接合用ボルト孔	孔の直径差		+2 -0	
		中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ		
			$\leq 1000\text{mm}$		$\leq 1$
		中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ		
	$> 1000\text{mm}$			$\leq 1.5$	
	(鑄放し) アンカーボルト用孔	孔の直径	$\leq 100\text{mm}$	+3 -1	
			$> 100\text{mm}$	+4 -2	
		孔の中心間距離		JIS B 0403-95 CT13	
	センターボス	ボスの直径		+0 -1	
		ボスの高さ		+1 -0	
	上巻の橋軸及び直角方向の長さ寸法		JIS B 0403-95 CT13		
	全移動量 $\phi$	$\phi \leq 300\text{mm}$		$\pm 2$	
		$\phi > 300\text{mm}$		$\pm \phi/100$	
	組立高さ(H)	上、下面加工仕上げ		$\pm 3$	
		コンクリート 構造用	$H \leq 300\text{mm}$	$\pm 3$	
			$H > 300\text{mm}$	$\pm (H/200 + 3)$ 小数点以下切捨て	
	普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1, ※2		JIS B 0403-95 CT14	
		鑄放し肉厚寸法 ※1		JIS B 0403-95 CT15	
削り加工寸法		JIS B 0405-91 粗級			
ガス切断寸法		JIS B 0417-79 B級			
<p style="text-align: center;">鑄造品 (大型ゴム支承工)</p>	幅W 長さL 直径D	$w, L, D \leq 500$		0~+5	
		$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$		0~+1%	
		$1500 < w, L, D$		0~+15	
	厚さt	$t \leq 20\text{mm}$		$\pm 0.5$	
		$20 < t \leq 160$		$\pm 2.5\%$	
		$160 < t$		$\pm 4$	
	平面度	$w, L, D \leq 1000\text{mm}$		1	
		$1000\text{mm} < w, L, D$		$(w, L, D) / 1000$	

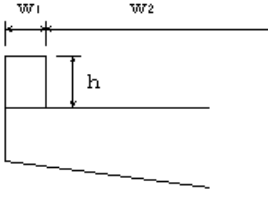
測定基準	測定箇所	摘 要
<p>製品全数を測定。</p> <p>※1 片面削り加工も含む</p> <p>※2 ただし、ソールプレート接触面の橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。</p>		
<p>製品全数を測定。</p> <p>平面度：1個のゴム支承の長さ（t）の最大相対誤差</p>		

工 種	測定項目		規格値
アンカーフレーム製作工	仮 組 立 時	上面水平度 $\delta_1$ (mm)	$b/500$
		鉛直度 $\delta_2$ (mm)	$h/500$
		高 さ h (mm)	$\pm 5$
仮設材製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
床版・横組工	基 準 高 $\nabla$		$\pm 20$
	幅 w		$0 \sim +30$
	厚 さ t		$-10 \sim +20$
	鉄筋のかぶり		設計値以上
	鉄筋の有効高さ		$\pm 10$
	鉄筋間隔		$\pm 20$
	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合		+10
伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ		舗装面に対し $0 \sim -2$
	仕上げ高さ		舗装面に対し $0 \sim -2$
伸縮装置工 (鋼製 フィンガージョイント)	高 さ	据付け高さ	$\pm 3$
		車線方向各点 誤差の相対差	3
	歯型板面の歯咬み合い部の高低差		2
	縦方向間隔		$\pm 2$
	横方向間隔		$\pm 5$
	仕上げ高さ		舗装面に対し $0 \sim -2$

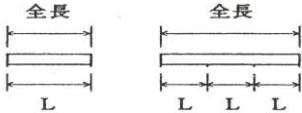
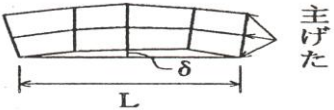

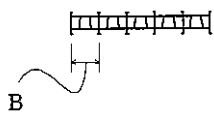
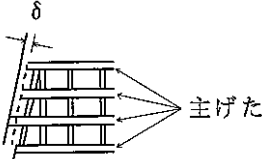
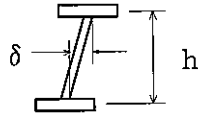
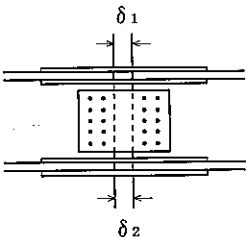
測定基準	測定箇所	摘 要
軸芯上全数測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		
<p>基準高は1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10m<sup>2</sup>に1箇所測定。(床版の厚さは、型枠検査をもって代える)</p>		
<p>1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎に1箇所とする。</p>		
<p>1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。1箇所の測定は橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定する。</p>		
両端及び中央部付近を測定。		
<p>高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向は両端、中央部の計3点。</p>		



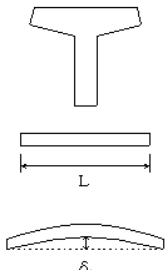
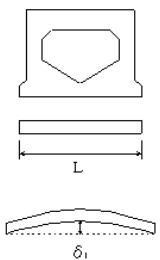
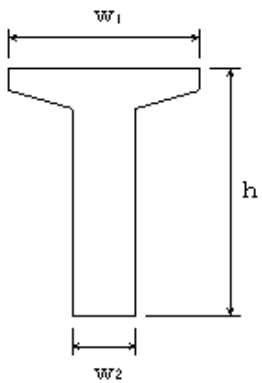
工 種	測定項目	規格値		
地覆工	地覆の幅 $w_1$	-10~+20		
	地覆の高さ $h$	-10~+20		
	有効幅員 $w_2$	0~+30		
橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 $W$	-5~+10		
	高さ $h$	-20~+30		
検査路工	幅	±3		
	高さ	±4		
支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5		
	可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上		
	支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋	鋼橋	
		±5	4+0.5(B-2)	
	下沓の水平度	橋軸方向	1/100	
		橋軸直角方向		
	可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5		
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2 以上			

測定基準	測定箇所	摘 要
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 ブロックを抽出して測定。		
<p>支承全数を測定。 B : 支承中心間隔(m)</p> <p>支承の平面寸法が 300 mm以下の場合 は、水平面の高低差を 1 mm以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。</p> <p>注 1)先固定の場合は、支承上面で測 定する。</p> <p>注 2)可動支承の遊間 (La,Lb) を計測 し、支承据付け時のオフセット量 <math>\delta</math> を考慮して、移動可能量が道路 橋支承便覧の規格値を満たすこ とを確認する。</p> <p>注 3)可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。</p> <p>詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		

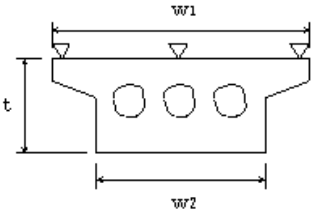
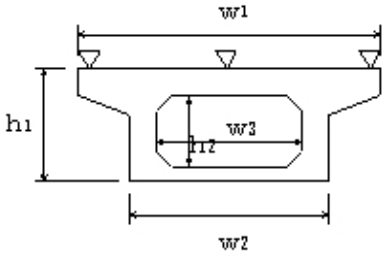
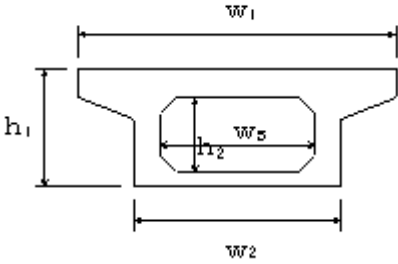
工 種	測定項目	規格値		
<p style="text-align: center;">支承工 (ゴム支承)</p>	据付け高さ 注1)	± 5		
	可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10 以上		
	<p style="text-align: center;">支承中心間隔 (橋軸直角方向)</p>	コンクリート橋	鋼橋	
		± 5 mm	4+0.5(B-2)	
	<p style="text-align: center;">水平度</p>	橋軸方向	1/300	
		橋軸直角方向		
	可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5		
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の1/2 以上			
<p style="text-align: center;">架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラバラークレーン架設)</p>	全長・支間長 L (m)	± (20+L/5)		
	通 り δ (mm)	± (10+2L/5)		
	そ り δ (mm)	± (25+L/2)		
	※主げた、主溝の中心間距離 B (m)	±4………B≤2 ± (3 + B/2) …… B>2		
	※主げたの橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ±10		
	※主げた、主溝の鉛直度 δ (mm)	3 + h/1,000		
	※現場継手部のすき間 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> (mm)	設計値 ±5		

測定基準	測定箇所	摘要
<p>支承全数を測定。                      上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。                      支承の平面寸法が 300 mm以下の場合、水平面の高低差を 1 mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。                      注 1)先固定の場合は、支承上面で測定する。                      注 2)可動支承の遊間 (La,Lb) を計測し、支承据付け時のオフセット量 <math>\delta</math> を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。                      注 3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。                      詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		
<p>各桁毎に全数測定。                      L : 主げた・主軸の支間長 (m)</p>		
<p>L : 主げた・主軸の支間長 (m)</p>		
<p>主げた、主溝を全数測定。                      L : 主げた・主軸の支間長 (m)</p>		
<p>各支点及び各支間中央付近を測定。</p>		
<p>どちらか一方の主げた (主溝) 端を測定。</p>		
<p>各主げたの両端部を測定。                      h : 主げた・主溝の高さ (mm)</p>		
<p>主げた、主溝の全継手数の 1/2 を測定。  <math>\delta_1</math>, <math>\delta_2</math> のうち大きいもの                      設計値が 5mm 以下の場合にはマイナスを認めない。                      ※は仮組立検査を実施しない工事に適用。</p>		<p>※規格値のL,Bに代入する数値はm単位の数値である。                      ただし、「主げた、主溝の鉛直度 <math>\delta</math>」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>

工 種	測定項目	規格値
プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁 長 L (m)	$\pm L/1000$
	断面の外形寸法	$\pm 5$
	橋桁のそり $\delta_1$	$\pm 8$
	横方向の曲がり $\delta_2$	$\pm 10$
プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L (m)	$\pm 10 \cdots L \leq 10\text{m}$ $\pm L/1000 \cdots L > 10\text{m}$
	断面の外形寸法	$\pm 5$
	橋桁のそり $\delta_1$	$\pm 8$
	横方向の曲がり $\delta_2$	$\pm 10$
ポストテンション桁製作工	幅 (上) $w_1$	+10 -5
	幅 (下) $w_2$	$\pm 5$
	高 さ h	+10 -5
	桁 長 $\ell$ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内
	横方向最大タワミ	0.8 $\ell$
プレキャストセグメント製作工 (購入工)	桁 長 $\ell$	-
	断面の外形寸法 (mm)	-
プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 $\ell$ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内
	横方向最大タワミ	0.8 $\ell$

測定基準	測定箇所	摘要
<p>桁全数について測定。橋桁のそりは中央の値とする。                      なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表に代えることができる。                      JIS 製品以外は、JIS 製品に準じる。</p>	 <p>The diagram shows a T-shaped beam. The top part is a horizontal flange, and the bottom part is a vertical web. A dimension line below the flange indicates the length L. Below the web, a curved line represents the camber, with a vertical dimension line indicating the camber value <math>\delta_i</math>.</p>	
<p>桁全数について測定。橋桁のそりは中央の値とする。                      なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表に代えることができる。                      JIS 製品以外は、JIS 製品に準じる。</p>	 <p>The diagram shows a beam with a central cutout. The top part is a horizontal flange with a central rectangular cutout. The bottom part is a vertical web. A dimension line below the flange indicates the length L. Below the web, a curved line represents the camber, with a vertical dimension line indicating the camber value <math>\delta_i</math>.</p>	
<p>桁全数について測定。                      横方向タワミの測定はプレストレスリング後に測定。                      桁断面寸法測定箇所は両端部、中央部の3箇所とする。  <math>\ell</math> : 支間長 (m)</p>	 <p>The diagram shows a T-shaped beam. The top part is a horizontal flange, and the bottom part is a vertical web. A dimension line above the flange indicates the width <math>w_1</math>. A dimension line below the web indicates the width <math>w_2</math>. A vertical dimension line on the right side of the web indicates the height h.</p>	
<p>桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>桁全数について測定。                      横方向タワミの測定は、プレストレスリング後に測定。                      桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。  <math>\ell</math> : 支間長 (m)</p>		

工 種	測定項目	規格値
PCホロースラブ製作工	基 準 高	±20
	幅 $w_1, w_2$	-5 ~ +30
	厚 さ $t$	-10 ~ +20
	桁 長 $l$	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots \pm (l - 5)$ かつ -30mm以内
PC箱桁製作工	基 準 高	±20
	幅(上) $w_1$	-5 ~ +30
	幅(下) $w_2$	-5 ~ +30
	内 空 幅 $w_3$	±5
	高 さ $h_1$	+10 -5
	内空高さ $h_2$	+10 -5
	桁長 $l$	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots \pm (l - 5)$ かつ -30mm以内
PC押出し箱桁製作工	幅(上) $w_1$	-5 ~ +30
	幅(下) $w_2$	-5 ~ +30
	内 空 幅 $w_3$	±5
	高 さ $h_1$	+10 -5
	内 空 高 さ $h_2$	+10 -5
	桁 長 $l$	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots \pm (l - 5)$ かつ -30mm以内
架設工 (コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)	全長・支間	—
	桁の中心間距離	—
	そ り	—

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>桁全数について測定。                      基準高は、1 径間当たり 2 箇所(支点付近)で 1 箇所当り両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは、1 径間当り両端と中央部の 3 箇所とする。                      ※鉄筋の出来形管理基準については床版・横組工に準ずる。                      ℓ：桁長 (m)</p>		
<p>桁全数について測定。                      基準高は、1径間当り2箇所(支点付近)で 1 箇所当り両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは、1 径間当り両端と中央部の 3 箇所とする。                      ※鉄筋の出来形管理基準については床版・横組工に準ずる。                      ℓ：桁長 (m)</p>		
<p>桁全数について測定。                      桁断面寸法測定箇所は両端部、中央部の 3 箇所とする。                      ※鉄筋の出来形管理基準については床版・横組工に準ずる。                      ℓ：桁長 (m)</p>		
<p>各桁毎に全数測定。</p>		
<p>一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。</p>		
<p>主桁を全数測定。</p>		



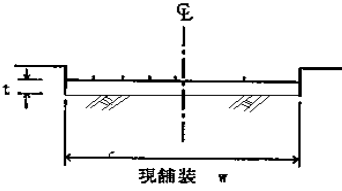
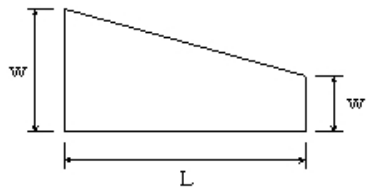
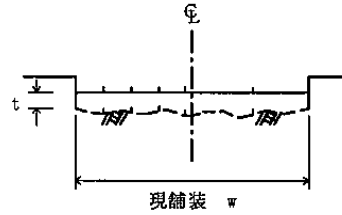
工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )
半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	—45	—15
	幅	—50	—
半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	— 9	— 3
	幅	—25	—
半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	— 7	— 2
	幅	—25	—
	平坦性	—	3 mプロファイル (σ) 2.4 mm以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm以下
半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	—15	— 5
	幅	—50	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線20m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>基準高については、舗装版打換え時等の路床面の基準高測定ができない場合は補充材の施工完了後、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。 基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時の路床面の基準高測定ができない場合及び、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合に適用する）。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。</p>	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事、及び施工延長 100m 未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。</p>		

工 種	測定項目	規格値	編
ポーラスアスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	—45	—15
	幅	—50	—
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工)	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
ポーラスアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	— 9	— 3
	幅	—25	—
ポーラスアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	— 7	— 2
	幅	—25	—
	平坦性	—	3 m <sup>2</sup> プロファイル (σ) 2.4 mm以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm 以下
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
ポーラスアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	—15	— 5
	幅	—50	—

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線20m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事、及び施工延長 100m 未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。 基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時等の路床面の基準高測定ができない場合及び、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合に適用する）。</p>	<p>基準高については、舗装版打換え時等の路床面の基準高測定ができない場合は補充材の施工完了後、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。</p>		

工 種	測定項目	規格値	編
グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	- 5
	幅	-50	-
グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	- 3
	幅	-25	-
グースアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	- 2
	幅	-25	-
	平 坦 性	-	3 mプロファイル (σ) 2.4 mm以下直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm 以下
路面切削工	厚 さ t	-7	-2
	幅 w	-25	-
舗装打換え工	路盤工	基 準 高 ▽	±40
		厚 さ t	該当工種
		幅 w	-50
		延 長 L	-100
	舗設工	厚 さ t	該当工種
		幅 w	-25
延 長 L		-100	
オーバーレイ工	厚 さ t	-9	
	幅 w	-25	
	延 長 L	-100	
	平 坦 性	-	3 mプロファイル (σ) 2.4 mm以下直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm 以下

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20mに測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事、及び施工延長 100m 未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。		
厚さは40m毎に現舗装高さとの差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
各層毎1箇所/1施工箇所		
厚さは40m毎に現舗装高さとの差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は延長80m毎に1箇所の割とし、延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。		

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値
落橋防止装置工 (アンカー工)	有効定着長 $\varnothing$	(引張部材) D22 以下 10D以上 D25 以上 ~D32 以下 12D以上 D35 以上 15D以上 (せん断部材及び段差防止装置) D25 以下 8 D以上 D29 以上 200mm 以上

出来形管理基準及び規格値

単位mm

測定基準	測定箇所	摘 要
全数を測定		